

令和4年度

# 教育方針

～「丹波篠山の教育」説明原稿～

令和4年2月15日

丹波篠山市教育委員会

本日の令和4年度の教育関連予算を提案するに際し、教育行政に取り組む所信を示し、議員の皆様をはじめ、市民の皆様のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

本市の教育は、「第3期丹波篠山市教育振興基本計画」に定めています「5つの施策の基本方向」に基づき取り組んでいます。令和4年度の教育施策については、配布しています「丹波篠山の教育」により説明いたします。

### 3 ページ

## 施策の基本方向1 子どもの根っこを育てる乳幼児教育の推進

### 1-1 “子育ていちばん”に向けて

「朝日とともに目覚め、四季を感じながら、夢中になって遊ぶ ささやまっ子」の育成をめざし、乳幼児期における体験活動を通じて豊かな感性を育み健全育成を図ります。

次に、子育て家庭のニーズに応えるための環境整備として、令和4年度は、公立保育園及びこども園の3歳児について、現在、副食（おかず）のみの提供となっていますが、主食であるご飯も提供し完全給食を実施します。また、土砂災害の警戒区域にある今田幼稚園、今田保育園について、園舎が老朽化が進んでいることも合わせ、安全安心な環境整備を最優先にあり方を検討します。

### 5 ページ 1-2 子どもの根っこを育てる環境づくり

子どもたちが夢をもって健全に育つよう、「眠育、食育、あそび」を総合的に推進する「ふた葉プロジェクト」を展開し、家庭と連携した子育て環境の確立に継続して取り組み、基本的な生活習慣づくり、自立心の育成、心身の調和のとれた発達をめざします。

プロジェクトの推進にあたっては、「篠山発子育て日めくり応援メッセージ」や「丹波篠山市幼児教育コンセプトブック」、自然遊びを紹介した情報

共通ツール「はる・なつ・あき・ふゆ あそぶつく」を活用していきます。

## 7ページ 1-3 乳幼児教育の充実

乳幼児期の子どもたちが、心豊かにたくましく生きる力を身につけるため、この丹波篠山の自然を最大限に活かしながら、体幹づくりや粘土遊び、水遊び、砂遊び、泥遊びなど諸感覚を鍛える保育、教育に取り組みます。また、私立こども園とも連携し、職員同士が学び合う風土をつくり、職員の資質向上に取り組みます。

## 8ページ 1-4 子ども・子育て支援の体制づくり

保護者が子育てについての責任を果たせるよう、地域社会が保護者に寄り添い、子どもの成長、親自身の成長に対し、喜びや生きがいを感じる体制づくりを進めます。また、子育てしている保護者の心理的負担を軽減し、子育ての楽しさが実感できるまちづくりを進めます。

そのため、令和4年度、病児保育における時間延長など、受け入れの拡充をします。また、大規模児童クラブの運営を円滑に行うため施設長を配置します。

## 10ページ

### 施策の基本方向2 **生きる力を培い創造性を伸ばす教育の推進**

#### 2-1 確かな学力の確立

グローバル化の進展に、ICT・AI等の情報技術の急速な進展が加わり、変化の激しい予測困難な時代にあって、子どもたちが自立して活動していくために、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、それらを活用して課題解決を図る思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力・人間性等を身につける取組を進めます。

まず、生活実態や学力状況を適切に把握するため「全国学力・学習状況調査」に加えて「丹波篠山市学力・生活習慣状況調査」を継続して実施します。

そして、この調査結果を基に、学力向上プロジェクト事業、主体的な学習習慣の育成、読書活動の充実、外国語教育の充実等に取り組みます。

また、小中学校に配置した一人一台端末で、児童生徒が情報及び情報手段を主体的に選択し、活用していく力を育むため、発達段階に応じた情報活用能力を育成していきます。また、学習プリント配信システムの活用を進め、児童生徒の主体的な学習を支援していきます。

次に、外国語教育の充実についてです。外国語指導助手（ALT）や小学校外国語活動指導補助員（JTE）とのふれあいや対話を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。小学3・4年生では、英語によるコミュニケーションを図る素地づくりを行い、5・6年生の教科「外国語」では、「読むこと」「書くこと」を加えた言語活動を通じて、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ります。

## **15ページ** 2-2 豊かな心の育成

道徳教育、人権教育、ふるさと教育等の充実を図り、人間形成の基盤となる豊かな情操と道徳性を培い、子どもたちが主体的に判断し、適切に行動する力を育成します。

そのため、全ての教育活動を人権教育の視点で捉えて、自分の大切さとともに他の人の大切さも認める態度や資質を育成します。また、多文化共生教育を推進するとともに、帰国・外国人児童生徒に対しては、母語支援・日本語指導を引き続き実施します。また、デジタル社会に対応するため、児童生徒が、オンラインやICTの利活用時に生じるリスクを理解し、安全に利用する能力を身につける「デジタル・シティズンシップ教育」を進めます。

また、発達段階に応じて、持続可能な開発目標（SDGs）の関連した学習を取りいれるとともに、「環境体験学習」「自然学校」「わくわくオーケストラ教室」「トライやる・ウィーク活動」「トライやるアクション」など自然体験、社会体験の充実を図ります。

## 20ページ 2-3 健やかな体の育成

生活環境が急激に変化する社会において、子どもたちが生涯を通じて活力をもって活動していくためには、スポーツに親しみ、継続的に運動ができる資質・能力の育成を図り、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、心身の調和的発達を図っていくことが大切です。

そのため、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「兵庫県児童生徒体力・運動能力調査」を通して、運動能力の向上と体力づくりへの関心を高め、生涯にわたりスポーツを楽しもうとする意欲の向上を図ります。また、健全な体を保つため、栄養教諭が中心となって、家庭や地域と連携しながら「食育」を進めるとともに、学校薬剤師等と連携し、「喫煙・飲酒・薬物乱用防止」の教育を行います。

「部活動の充実」では、地域の指導者に協力を得ながら、「部活動推進員」「部活動指導員」「部活動支援員」を配置し、指導体制の充実と教職員の負担軽減を図ります。

## 22ページ 2-4 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育成します。

キャリア形成支援事業「夢プラン」は、進路を考え始める市内中学2年生と保護者を対象に「生き方」を考える機会として実施します。市内3高等学校の学校紹介を通じて、中学校卒業後の進路について考えるとともに、地元で活躍されている方からも話を聞き、主体的に進路を選択する能力や態度を育成します。

また、小学校6年間と中学校3年間、この9年間の子どもの育ちと学びに連続性を持たせるため、「小中連携心のサポート事業」として、小中連携教育を通じた「ユニバーサルな学校づくり」を進めます。また、児童が中学校

へスムーズに移行できるよう、オープンスクールへの相互参加や児童生徒の交流を推進するとともに、いじめや問題行動、不登校対策等について小中学校が連携し組織的な対応を進めます。

## **24ページ 2-5 特別支援教育の充実**

共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育システムを構築するため、すべての学校園や学級に、発達障害を含めた障がいのある子どもたちが在籍することを前提に、一人一人の教育的ニーズを把握し、自立と社会参加を見据えたキャリア形成に向け、きめ細かく適切な教育的支援を行います。

篠山養護学校を特別支援教育のセンター的な役割を担う学校として位置づけ、教職員の専門性を高めます。また、篠山養護学校内に設置した早期発達支援室では、発達障害及び知的障害のある幼児に対し、適切な早期支援を行い、個々の成長発達及び円滑な就学期への移行を促します。さらに効果的な支援を推進するため、教育支援委員会、発達障害児等支援連絡会議及び児童発達支援センター等と適切な連携を図っていきます。

また、一人一人に応じた教育支援を行うため、個別の教育支援計画（サポートファイル）を保護者ととともに作成し、このファイルを保幼小、小中、中高の学校園間で確実に引き継ぎ、情報を共有して、一貫した指導・支援を行います。

## **27ページ**

### **施策の基本方向3 子どもの学びを支える環境づくりの推進**

#### **3-1 安全安心で質の高い学習環境の整備**

子どもたちが安心して学校生活を送るためには、安全で質の高い学習環境の整備が重要です。また、安全教育を継続的、計画的に実施し、安全安心な学校園づくりを進めます。

令和3年度に改訂する「学校園安全管理マニュアル」を活用し、安全安心な学校づくりのため「学校園安全計画」を策定します。

学習環境の整備では、令和4年度には篠山中学校の大規模改修を行うとともに、城東地区のスクールバス1台を更新します。また、夏季期間中の暑さ対策を目的に、遠距離を徒歩通学する児童を対象に、下校時に車両運行します。また、ICTの効果的な活用を進めるため、指導者用、学習用デジタル教科書を整備し、活用と効果を検証します。

自然災害や交通事故、犯罪などから子どもたちを守る安全安心な学校園づくりのため、家庭・地域・関係機関と連携しながら安全教育を継続的・計画的に実施し、訓練を通して実践力を向上させます。

### **30ページ 3-2 地域とともにある学校づくり**

子どもたちが地域の中で豊かな経験と多様な学びができるよう、学習環境を学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちの教育に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進めます。

子どもたちのふるさとを大切にす気持ちをも高めるため、地域に学ぶ授業や、地域の特色ある資源を活用した取り組みを進めます。また、保護者や地域住民に学校園の教育活動の理解を促進するため「オープンスクール」を実施していきます。地域住民や保護者などで構成された「学校運営協議会」では、登下校の見守りなど「地域学校協働活動」なども連携して取り組んでいきます。

地域住民の参画を得て、引き続き「放課後子ども教室」「通学合宿」や「トライしよう DAY」に取り組む、子どもたちのコミュニケーション能力、豊かな人間性や社会性を育むとともに、地域の教育力の向上をめざします。

### **33ページ 3-3 家庭の教育力の向上**

家庭、学校、地域が一体となり、次世代を担う子どもたちの健全育成を共に考える機会や、安心して子育てができる環境づくりに向けた情報交換・仲間づくりの機会を提供します。

青少年協議会、PTA協議会、子ども会連絡協議会等の活動支援を通じて、

地域ぐるみで子どもたちを育てることの大切さを再認識し、思いやりと郷土愛を持った子どもの育成をめざします。

また、子育てをする親が必要な知識を学び、ともに助け合い、仲間づくりができるよう、親子の絆プログラム「赤ちゃんがきた！」と「きょうだいが生まれた！」の講座を開催します。

### **34ページ 3-4 教職員の資質能力の向上**

教職員は、時代や社会、環境の変化を的確につかみつつ、その求められる資質・能力を高めていく必要があることから、その適切な学びや対策を提供していきます。「教育研究所」では、教育関係職員の成長と子どもたちの資質・能力の育成の基盤とした教育活動が展開できるよう、調査・研究、並びに研修を推進します。

いじめ問題については、学校、家庭、地域が一体となって、未然防止・早期発見・早期対応に取り組めます。「いじめ防止基本方針」に基づき「いじめ対応チーム」が中核となり学校全体で総合的ないじめ対策を行います。

教職員の人権意識を高め資質向上を図るため、正しい知識や新しい情報を学び、人権・同和教育への理解を深める研修を充実していきます。

教職員の業務の効率化と業務負担の軽減を図るため、定時退庁日を各校で設けるなどの対策を講じるほか、市民に教員の働き方改革への理解を促進していきます。また、令和4年度全ての学校において、勤務時間外の電話対応に音声メッセージを導入します。

### **38ページ 3-5 保幼小中高大の連携**

保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校から高等学校や大学などの上級学校への進学には学びの連続性が必要であり、キャリア教育上の連携が大切です。学びと育ちの連続性を重視し、校種間の教職員等による情報交換を行うなど連携を強化し、発達段階に応じたキャリア形成を支援します。

中高連携では、市内3高校への進学を推進するため、「オープンハイスク



ール」の積極的な参加を呼び掛けるほか、各校の魅力を中学生や保護者に周知していきます。また、幼い頃から地元高校が身近に感じられるよう、小中高連携について調査研究を始め、可能なことから実践します。

## 39ページ

### 施策の基本方向4 人生100年時代を豊かに生きる学びの推進

#### 4-1 主体的に生きるための学びと場の充実

「人生100年時代」では、すべての人が自らの人生を設計し、学び続け、学んだことをいかして活動できる社会の形成が求められます。市民一人一人が生涯を通じて生きがいを持ち、様々な学びの機会を得ることや、社会の一員として必要な学びに取り組み、自らが暮らす地域の課題を協働して解決していくことがより大切であることから、ライフステージに応じた学習機会の創出に努めます。

図書館では、令和3年度に策定した「第2次丹波篠山市立図書館ビジョン」に基づき、あらゆる世代に応じた図書館事業を推進していきます。市民センター図書コーナーでは、令和3年度から職員を配置し、中央図書館と同等の図書館サービスを提供しています。また、図書館の利便性を向上させるため市内6カ所に設置している配本所を積極的に活用するほか、学校園との連携を強化し、学校での読書活動や学校図書館の支援を行います。

また、丹波篠山市史編さん事業では、編さん基本方針に基づき、編さん委員会や専門委員会、神戸大学と連携し、専門部会を立ち上げ、分野ごとの調査研究を進めます。また、歴史資料を収集・調査・整理・解読し、市史編さんに活用するとともに、地域資料として保存・活用を図ります。

また、さまざまな学びの機会を提供するため、「障がい者社会学級の運営支援」「外国人住民の学習支援」「高齢者大学の充実」「視聴覚機器の活用支援」等を行います。

#### 45ページ 4-2 スポーツの推進

スポーツを通じて楽しさや感動を分かち合い、一人一人が健康で、いきいきと暮らす社会の実現に向け、スポーツ団体と連携・協働したスポーツ環境の整備・充実に取り組みます。

市民にスポーツ活動の機会を提供するため、スポーツ協会、スポーツクラブ 21 及び各種スポーツ団体への支援を行います。新型コロナウイルス感染症の影響により令和 3 年度の第 4 2 回大会は中止となりましたが、令和 4 年度は 4 3 回目となる「丹波篠山 ABC マラソン」を開催します。

また、「TAMBASASAYAMA ライジングスター育成事業」では、トップアスリートとのふれあいを通じて、子どもたちに夢と希望を与える取組を行います。

さらに、指定管理施設の長寿命化と安全・安心な施設をめざして、丹波篠山総合スポーツセンターにおいて、照明の LED 化や防球ネットの設置に取り組みます。

#### **4 7 ページ 4-3 文化財と町並みの保存と活用**

歴史文化を活かしたまちづくりをさらに推進するため、活性化の核となる国指定の文化財や伝統的建造物群保存地区等の保存と活用を進めながら、地域住民主体の取組を継続して推進します。

まず、国認定の「文化財保存活用地域計画」に基づき、歴史資産を活かしたまちづくりを推進するため、「歴史文化まちづくり賞（仮称）」を創設し、歴史文化フォーラムを行います。

また、史跡篠山城跡では「篠山城跡整備基本計画」に基づき二の丸南西の高石垣の修理工事を完成させます。史跡八上城跡では、登山道の維持管理及び整備を行い、現地ワークショップを開催するなど地域と連携しながら八上城整備基本計画の策定の準備を進めます。

重要伝統的建造物群保存地区である篠山地区と福住地区では、令和 4 年度も計 8 件の保存修理を行い、歴史的風致の向上を地区住民と連携しながら進めます。福住地区においては保存地区 1 0 周年を迎えるため、記念シンポジ

ウムを計画しています。

また、令和5年度には、丹波篠山市が「全国伝統的建造物群保存地区協議会総会」会場となることから、その準備を進めていきます。

#### **49ページ 4-4 文化・芸術の振興**

篠山城大書院、歴史美術館、青山歴史村、武家屋敷安間家史料館の歴史文化施設4館や田園交響ホールの特徴を生かし、丹波篠山市の歴史文化・芸術の発信拠点としていきます。

18回目となる丹波篠山市展では、市内外からの優れた作品を展示することで、市民の創作活動への意欲を高め、鑑賞機会の提供とし、芸術文化の振興を図ります。

田園交響ホールでは、市民が希望する公演や質の高い舞台芸術に触れる機会の創出も考えながら、子どもから大人まで誰もが楽しめる魅力ある主催公演を実施していきます。その中で、オペラ“ラ・ボエーム”ハイライトコンサート、古澤巖ヴァイオリンコンサート、桂文珍ふるさと独演会の恒例事業を始め、演歌、ポップス、バラエティショーなど、14本の多彩な公演を予定しています。

また、施設の整備として、令和4年度舞台照明設備の操作卓改修とLED機器の更新を計画しています。

#### **52ページ 4-5 自然遺産に学ぶ教育の充実**

地域を担う人材の育成には、「地域を知る」ことが欠かせません。市内に数多く点在する地域資源を教材として活用し、学校教育・社会教育の連携を積極的に行い、学習機会の提供・充実を図ります。

体験学習の拠点、調査研究施設としての「太古の生きもの館」では、「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム構想」に基づき、丹波市や人と自然の博物館と連携して、化石発掘体験イベントや市内全小学校を対象とした校外学習プログラムを実施します。また、宮田の重点保護区域も小中学生の体

験学習の場としての活用を推進します。このような事業展開を通して、化石  
石割発掘などの次世代市民ボランティアの育成に繋がるよう取り組みます。

## 53 ページ

### 施策の基本方向5 郷土を愛し誇りに思う人材育成の推進

#### 5-1 ふるさと丹波篠山を愛する心の育成

歴史的・文化的な共同体としての郷土を心から大切に思い、郷土の発展を  
願い、それに寄与する姿勢を身に付けるよう取り組みます。

学校教育では、副読本である「わたしたちの丹波篠山市」「丹波篠山ふる  
さとガイドブック」を活用し、校区の名所旧跡、自然、産業などにふれ、ふ  
るさとへの誇りと愛着心を育みます。また、ボランティア活動や地域の行事  
に参加することを通じて「地域とともにある学校づくり」を推進します。

公民館事業で、伝統文化の魅力を紹介する「丹波ささやま市民文化講座」、  
魅力を再発見する「丹波ささやまおもしろゼミナール」、古文書に親しみな  
がら歴史を学ぶ「古文書講座」を行います。

また、郷土味学講座は、郷土料理レシピ集「よろしゅうおあがり」「よろ  
しゅうおあがりⅡ」を活用し、郷土料理の普及・啓発を進めます。

#### 56 ページ 5-2 学校給食の充実と食育の推進

学校給食での献立の充実を図り、子どもたちが食に関する正しい知識と望  
ましい食習慣を身につけるため、生きた教材である学校給食を活用した食育  
推進を継続的に取り組みます。

丹波篠山産コシヒカリ、地元食材を活用した学校給食を充実させるため、  
主食となる米飯には、「農都のめぐみ米」を使用していきます。また、地元  
野菜の安定的な使用及び地元食材の活用率向上を図ります。地元特産を取り  
入れた「篠山まるごと丼」や「ぼたん汁」といったふるさと献立を取り入れ  
るほか、丹波篠山茶週間では、毎日一品、丹波篠山茶を使用した献立を提供  
します。また、令和4年度は丹波篠山産黒大豆の使用を増やしていきます。

全国学校給食甲子園での献立部門2年連続入賞により、農都・丹波篠山を全国にアピールすることができ、学校給食関係者はもとより市民にも大きな誇りになりました。令和4年度は、日本一の学校給食献立をまとめた「(仮称)丹波篠山の学校給食」を販売し、全国に発信します。この概要版では学校給食の歴史、地元特産食材、地元生産者を紹介し、児童生徒への地域、食文化への関心を高めていきます。

また、給食センターでは、安全に安定して学校給食が提供できるよう、令和4年度にボイラーと配送トラック1台更新を計画しています。

## 59ページ

### これまでの価値を再認識し、新たな創造・憧れづくりを

新型コロナウイルス感染症によって学校や家庭、地域における生活や環境が大きく変化し、子どもたちや市民の行動等に大きな影響を与えています。

従来、できていた行事やイベントができなくなって、これまで当たり前と思っていたことが実は当たり前ではなく、とても恵まれた貴重なものであることが分かってきました。日常生活における人との交流や伝統的な催しも含め、それらの価値を再認識し、感染対策を講じながら新しい日常の創造に取り組んで行かなければなりません。

学校における様々な活動の制限は、子どもたちが得られるはずだった学びの機会や人との交流を減少させ、子どもたちの不安や悩みが増えているのではないかと心配しています。引き続き、GIGA スクール構想で実現した ICT 環境の活用や少人数指導体制の整備等による「個別最適な学び」と探究的な学習や体験活動等による「協働的な学び」とを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていきます。また、子どもたちの小さな声をしっかり受け止め、組織的な対応と外部の専門機関等とも連携して、誰一人も取り残さない学校をつくっていきます。

社会教育においても、これまで連綿と続いてきた文化や芸術、学びの継続が厳しい状況にあります。感染防止に努めながら、ウイズコロナに対応した

あり方を探ることで、一人一人の学びや習い事が続けられ、市内全域に文化、芸術や学びの環境が充実した「文化の森」「知の森」が形成されるよう努め、市民が互いに学び、高め合う豊かな土壌をつくっていきます。

人の成長には何よりも「憧れ」が効きます。子どもが学校園時代に出会った先生に憧れて教職を目指すように、市内で形成された「文化の森」「知の森」で、生き活きと活動する先輩方の姿に憧れて、各自の生活を充実させていく、そうした教育・文化・スポーツ環境づくりを進めていきます。